

之狀如件

天正三年十一月六日

信長○花押

大覺寺殿

〔續應仁後記三〕三好孫次郎範長所々合戰事

同キ天文八年己亥ノ六月、公方家モ若君達モ京都ヲ御退去ナラセ給テ、洛外八瀬ノ里ニ移ラセ給ヒ、朽木民部少輔植綱等相從奉リ、同十年坂本へ御動坐有リ、或ハ慈照寺ニ入御、マシマス時モ有リ、

〔雍州府志山川〕八瀬里 去洛東北三里許、在叡山麓、斯邊總小野庄内也、一説天武天皇被襲、大友

皇子時逃此里、流矢中、天皇背後、故號矢背云、土俗男子亦椎髻、傳言山鬼曾栖八瀬河、西山中鬼洞、

一村男女悉山鬼之裔也、故男子亦束髮於頭上一處、到今年自七月七日至同月十五日、村中兒

女聚斯洞、鳴鉦、大唱彌陀佛號、是謂祭先祖、子道○黑川思斯處在叡山麓、自傳教大師以後、被聽牛車

之僧使此土人藏車飼牛、其僧乘車入洛日、則使土人爲牛童、倭俗牛童束長髮於頂上、垂其末於背

後、今長髮則其遺風也、何有爲鬼神之裔乎、一村百戶餘、俗朴身著木棉衣、又著裘革袴、登山如猿、狢

耕田以牛馬、農暇各腰斧、鎌登山伐木、尺許束之、入窖蒸之、去濕氣、則青色忽變黑、是謂黑木、日々賣

京師、大原土俗亦然、

〔夫木和歌抄三十一〕や瀬の里山城 戀歌中歌林

印禪法師

日にそへてすがたぞかげに成にけりやせの里なるいもをこふとて

〔夫木和歌抄三十一〕たけたの里竹田、山城 永久四年百首水鷄

俊賴朝臣

心からたけたの里にふしなれていくよくるなにはかられぬらん

〔類聚名物考地理三〕竹田里 たけたのさと 山城國紀伊那 原 竹田